

都市の3Dデジタルマップの実装に向けた産学官ワーキンググループ（第5回）

議事要旨

日時：令和4年1月19日（水） 13時00分～15時00分

場所：オンライン開催

<WGでの主な意見>

- ・小さな工事や大きな開発事業が進むことで都市は日々更新されていくため、サイバー空間とフィジカル空間にずれが生じてくる。データをどの頻度で更新するかが重要。
- ・また、詳細化されたデータから、フィジカル空間の課題を見つけて改善する動きも必要であり、単にフィジカル空間のデジタルコピーを作るという意味では無く、サイバー・フィジカルが両方連動してアップデートされていく仕組みが構築されるとよい。
- ・オープンデータ化の方法について、CC-BY 4.0 だけでは足りないとの社会認識が増えてきている。デュアルライセンス化を急いであうがよい。
- ・細かい情報が出ることはとても良いことであるが、間違った情報が出ると世間を混乱に陥れる。かつ、東京都が公開するものであるということが重要。
- ・時間軸を含めた品質基準を定めてデータをマネジメントしていくことが重要。一方で、データを無限に詳細化することは現実的ではないため、適用するユースケースやアプリケーションによって、取得地物や詳細度の線引きは必要となる。
- ・行政が整備するデータと、民間データを活用した場合の品質の考え方を整理する必要がある。一方で、規制強化がすぎると自由な発想での議論を妨げることとなり、このバランスをもった整理ができるとよい。
- ・データ整備や更新について、Project PLATEAU をベースとしつつ、都が広域的あるいは独自に進める部分、市区町村との役割分担で進める部分や追加的に整備する部分などの整理が必要。
- ・データ更新については、都市計画基礎調査（土地利用現況調査）の延長線上で実施できることがボトムラインと考えられる。
- ・データ更新について、建築確認申請などの許認可の仕組みと連動することについて、次の段階として都市計画以外の部局との連携が積極的にできるとよいのではないかと。
- ・各種のシミュレーションや3Dデータ利活用は試験段階ではなく実用段階になったと感じる。このベースマップの整備にあたっては、空間方向のカバレッジ（適用範囲）だけでなく時間軸方向も考慮することが重要である。
- ・BtoBの観点ではスケール、コスト、制度等を議論すればよいが、BtoCの観点ではアイデアやイノベーションが充実されるとよい。また、メタバースなど民間の動きもウォッチしておけるとよい。

<議論のまとめ>

- ・本日の議論を踏まえて、2月下旬までにデータ整備、ユースケース連携、仕様検討のブラッシュアップ等を行う。
- ・次回第6回WGは3月2日（水）13：30から開催を予定